

あくせす news

第 261 号
2024 年 3 月 14 日
発行者
呉市医師会病院
地域医療福祉連携室
あくせす

木々や花が芽吹き始める様子に、春の訪れを感じる季節となりました。公園で見かける桜のつぼみも日を追うごとに膨らんでいきます。さて、先生方にはいつも **あくせす** をご利用いただき、ありがとうございます。引き続き、一層のご利用・ご紹介のほど、よろしくお願い申し上げます。



講演会報告 「呉市豊かな心を育む保育研究協議会 学習会」

2月16日（金）、「呉市豊かな心を育む保育研究協議会」主催によるオンライン学習会が開催され、『こどもの排便について』をテーマに藤森正彦 医師（大腸肛門病センター長）が講演を行いました。はじめに「こどもの排便を考えるためには、まずは大人が自分の排便が良いのかどうかを考えなければならない」と話があり、身体のしくみや良い便の状態、排便時の姿勢や排便にかかる時間、食事や薬の使用法など、図や動画を用いて説明がありました。



オンライン配信中の藤森医師

続いてこどもの排便について、トイレトレーニングは焦らずこどもの成長に合わせて行い、トイレに

ネガティブな感情を抱かせないようにすることが大切であること、またこどもの便秘は排便を我慢する要因を考慮し、便秘の悪循環に陥る前に早期に適切な治療が必要であると助言がありました。

当日は保育関係者（幼稚園教諭・保育教諭・保育士など）123名の参加があり、保育に携わる方々の「こどもの排便」に対する関心の高さを伺うことができました。

小児における排便を我慢する要因

- 痛みのある排泄
- 肛門裂傷、肛門周囲の炎症、痔
- 性的虐待
- 意識的
- 新しい学校や旅行などの環境の変化
- 家族のストレス
- 不適切なトイレトレーニング
- 情緒障害、重症精神遅滞、抑うつ



大腸肛門病センター

藤森先生の講義は動画が豊富で、よりイメージができ理解へ繋がりました。保育所看護師としてこどもたちへこの大切さを伝える活動をしています。「うんこってすごい!」と更に自分の身体に関心を持ってもらえるような関わりをしていきたいと思いました。



保育所看護師

こどもの便秘について、とても分かりやすいお話でした。成長が遅い子はゆっくりと見守っていくことが大事という先生の言葉が印象に残りました。こどもたちの排便の状態を知り、保護者に正しくお伝えできればと思います。こどもたちともどんなものを食べると良いかの話をしたり、「うんこダスマンたいそう」も一緒にしていきたいと思っています。



保育士

おしりの悩み無料相談

来年度の日程が決定しました。

2024 年度

4月	10日・24日	10月	9日・23日
5月	8日・22日	11月	6日・20日
6月	5日・19日	12月	4日・18日
7月	3日・17日	1月	8日・22日
8月	7日・28日	2月	5日・19日
9月	11日・25日	3月	5日・19日

【予約受付先】 TEL : 22-2321 (代表)

当院では皮膚排泄ケア認定看護師を中心に「おしりの悩み無料相談」を行っており、多くの方にご利用いただいています。

排便やおしりに関する悩みについて、「まずは相談してみたい」と希望される患者さんがおられましたら、ぜひご案内のほど、よろしくお願いいたします。

水曜日（月2回）13:30~



皮膚排泄ケア認定看護師 岡野 純子

2023年度 看護部 発表会 ご報告

2月13日(火)に、卒後1年目看護師9名による「心に残る看護体験」、卒後2年目看護師2名による「ケーススタディ」の発表がありました。

一人ひとりの患者さんと向き合う中で、患者さんから学ばせていただき、寄り添うことができた看護体験の発表がありました。まだまだ未熟ではありますが、患者さんの「声」に耳を傾け、五感を養い、よりよい看護が提供できるよう、また先輩看護師達も、初心に戻り「看護の基本を忘れず」精進し続けたいと思える発表会となりました。

看護部長 風呂本 理恵

ケーススタディ

「ストーマセルフケア獲得に
ストレスを抱えた患者の看護」
4階病棟 小栗 美咲



直腸癌に対し一時的に人工肛門を造設した患者の事例報告を行った。日常生活は自立している患者ではあるが、手術への不安、術後の体調変化、ストーマ管理への自信がないことでストレスが強く、本来目標としていたストーマセルフケアの獲得は困難と感じた。

そこで患者の思いを傾聴・尊重したうえで出来ることは本人にやってもらい、観察や交換は看護師と共に行うように変更したことで笑顔が見られ、不安やストレスが軽減されていた。この事例から、患者の性格や思い、身体の状態に寄り添った看護を行うことで安心できる療養生活へと繋がると学んだ。

ケーススタディ

「退院支援指導を通しての
患者・家族との関わり
～退院支援で必要なこと～」
7階病棟 宮尾 侑汰



入院中、褥瘡の処置を受け、退院後も継続的処置が必要な患者に対する退院支援の事例報告を行った。本人・家族共に自宅退院を希望されたが、当初家族は褥瘡の処置や介護への不安が大きかった。そこで、処置の方法を記載したパンフレットを、家族が分からない点を何度も修正しながら作成した。また、家族を含めたカンファレンスを実施し、多職種と連携を取りながらサービス調整・自宅環境の整備・リハビリ見学をすることで、最後には安心して退院していただくことができた。この事例を通して、入院早期から支援していくことが重要であると改めて認識した。



演題：内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を施行した
大腸 MALT リンパ腫の1例

講師：大谷 里奈（呉市医師会病院 内科主任医長）

日時：2024年3月26日(火) 19:00～
場所：5階講堂（Web配信もあります。）

関係医師懇談会
～ご案内～

軽食(カレー)をご用意しております。
先生方の会場へのご参加をお待ちしております。

★2月1日～2月29日★

※届出日数(地域包括ケア病棟、障害者病棟等を除く)

平均入院患者数	平均病床利用率	平均在院日数※	紹介外来患者数	医療相談患者数
115.7人	58.4%	19.9日	83人	84件



呉市医師会病院 地域医療福祉連携室 あくせす

<http://www.kure.hiroshima.med.or.jp/hp/>

電話 (0823) 32-7576 (直通) 院長 中塚 MSW 森下 MSW 菅原 MSW 巻幡
FAX (0823) 32-7507 室長 中間 事務 中野 事務 向井 事務 井上 事務 岩畔